

## 巻頭言

### 健康教育のきっかけ=CO・GOって何？

一般社団法人青森県歯科医師会 学校歯科委員会 委員長 村上 淳一

今年度より、高瀬前委員長からバトンを受け学校歯科委員会を担当しております村上淳一と申します。どうぞよろしくお願いいたします。今回は古くて新しい話題、CO・GOについてご紹介します。

学校における歯・口腔の健康診断は、従来の疾病発見志向から健康志向へと大きく変化しています。感染症であるとともに生活習慣病でもあるむし歯や歯肉炎において、COあるいはGOがスクリーニング項目に入ってきました。

要観察歯COは、視診にて明らかな窩は確認できないがむし歯の初期病変の徴候(白濁、白斑、褐色斑)が小窩裂溝、平滑面に認められ、その状態を継続的に注意深く観察する必要のある歯です。特に隣接面や修復物下部の着色変化や上記の初期病変が多数認められる場合は歯科医所見欄にCO要相談と記入します。

GOは歯垢の付着があり歯肉に炎症があるが、歯石の沈着は認められない者のことです。定期的な観察が必要で、生活習慣の改善と注意深いブラッシング等の適切な保健指導を行うことで炎症症状が消退する程度の歯肉炎を有しています。歯肉の炎症は短期間で改善もするし、増悪もします。そのため保健指導によって自発的な健康行動をとることができれば、その効果を実感できる良い機会となります。さらに自分の体が発するサインを見つけることができるという健康習慣を育成することも可能となります。

このように、CO・GOをきっかけとしたむし歯や歯肉炎に対する健康教育が、生涯にわたる歯周病対策の基礎になっていきます。

## 歯科保健図画・ポスター・歯科啓発標語コンクール **結果**

### 図画・ポスター特選作品



保育園の部  
ハッ橋保育園(青森市) 木村心音さん



幼稚園の部  
いちい幼稚園(三沢市) 田嶋彩葉さん



小学校低学年の部  
南部町立向小学校2年 奥山夏葵さん



小学校高学年の部  
板柳町立板柳東小学校5年 福土菜乃羽さん



中学校の部  
むつ市立むつ中学校2年 畑中愛琳さん



高等学校の部  
五所川原工業高校3年 青山理律さん



特別支援学校の部  
森田養護学校 小学部4年 坂本康輔さん

### 標語金賞作品 「チョコたべる？」はみがきしたから「がまんするー」

むつ市立関根小学校2年 山本琉斗さん

# 報告

## 平成27年度青森県学校歯科保健研究大会 ～児童生徒の生活習慣を口腔衛生の立場から考える～

日時：平成27年7月28日(火) 場所：青森市「青森県歯科医師会館」  
主催：青森県教育委員会・青森県歯科医師会 共催：青森県学校保健会

学校歯科委員 村田 浩伸

参加人数123名(小学校44名、中学校24名、地域保健11名、教育委員会3名、幼稚園2名、県立11名、医療関係6名、関係者22名)が参加のもと開催されました。

小・中・高の養護教諭による実践発表があり、それぞれに趣向を凝らした保健活動に取り組んでおられ、特に学校のみならず、地域全体で学校保健活動に参加されていることは素晴らしいと感じる内容でした。

その後、青森県の学校歯科の現状についての報告と事前質問への回答を行いました。(事前質問回答は右に記載)

昼休憩をはさみ開会行事が行われ、午後の講演1は工藤こども医院院長 工藤協志先生による「小児診療ザックバラ」。

小児救急医療の現状、肥満と病的やせ、発育期のスポーツ障害、こどもに休息を等についてお話されました。講演2は明海大学歯科法医学分野教授 坂英樹先生より「児童虐待について 歯科の立場から」。児童虐待の相談件数、死亡事例件数が年々増加している中で、歯科における児童虐待の状態、虐待への取り組み方、学校歯科医の役割についてお話されました。

今後、学校歯科健診や地域の歯科健診において多発性カリエスの子どもに遭遇した際は、養護教諭や保健師に一声かける勇氣を持たなければならない気持ちになる講演でした。

### 大会内容

#### (1) 実践発表 (10:35 ~ 11:35)

小学校：八戸市立明治小学校 養護教諭 小野寺 睦  
中学校：弘前市立相馬中学校 養護教諭 石戸谷真規子  
高等学校：県立十和田西高等学校 養護教諭 菊池 亘子

#### (2) 報 告 (11:35 ~ 11:45)

「青森県の学校歯科の現状」～平成27年度歯科データから～

講師 学校歯科委員会 委員 工藤 淳治

#### (3) 講演1 (13:05 ~ 14:15)

テーマ：「小児診療ザックバラ」

講師 公益社団法人 日本小児科医会 理事  
工藤こども医院 院長 工藤 協志 氏

#### 講演2 (14:25 ~ 15:35)

テーマ：「児童虐待について 歯科医師の立場から」

講師 明海大学歯学部 病態診断治療学講座  
歯科法医学分野 教授  
歯科法医学センター センター長 坂 英樹 氏



### \* 質問事項への回答 \*

Q1 生活習慣とむし歯についての資料で適切なものがあつたら、教えて頂きたい。同様に噛むことの大切さについても最新の資料があつたら教えて頂きたい。

A. 歯が解けるのはエナメル質のpHが5.5より低くなった時である。食べ物が口の中に入ると、4～5分位で歯が溶けはじめる。レモン、炭酸飲料、栄養ドリンク、ワイン等pHの数値が低くなればなる程むし歯になりやすい食品である。5.5より多い場合、むし歯をつくらぬ食品と解釈してもよい。むし歯予防は歯磨きだけでは行き届かない箇所もあるため、フッ素と併用することが大切である。また、噛むことの大切さについて、こどもの場合ある程度は硬い物、噛み切りにくい物を摂取するのは構わないが、成人以降は強く噛むと歯や顎が痛んでしまう。よく噛むということは回数を多く噛むということであり、硬い物を噛むということではないことを再認識して頂きたい。

Q2 県内の学校でフッ化物洗口を実施している所があると聞きました。その現状や集団洗口についての困難点などを教えてください。

A. 三沢市でH12年から保育園、幼稚園の年長組、小、中学校全児童生徒に実施している。歯磨き粉に入っているフッ素は約900ppmであり、フッ素洗口は約1000ppmである。また歯科医院で塗るフッ素は約9000ppmで濃度がかなり濃い。フッ素のポイントが低濃度を高頻回使用することで、フッ素入り歯磨き粉を使用し、且つフッ素洗口を行うことは非常に理にかなっている。三沢市は非常にむし歯の少ない地域である。

Q3 歯列、咬合が1の児童が多く、ていねいな歯みがきの他に指導できる事があれば教えて頂きたいです。

A. 1とは「要観察」で歯科医院に行かなくてもいいという状況だが、一番に指導して頂きたいのがコンプレックスに思わなくてよいということ。確かに、むし歯や歯肉炎になりやすく、発音にも障害が出ることもあり、また口呼吸になるかもしれない等いろいろな要素があるが、必ず治せるのでコンプレックスを持たなくてよいということを指導して頂きたい。

Q4 学校での歯磨きのあとの、適切な歯ブラシの保管方法を教えて頂きたいです。(キャップを付けるべきなのか、どこに置いておくべきなのか等)

A. 歯ブラシ使用後は生きている細菌が非常に多く付いているので、強めの流水でよく洗いよく乾燥すること。キャップは乾燥を妨げるためよくない。乾燥を促すため、風通しがよい場所、日当たりのいい場所に置くことが好ましい。次の使用までに乾燥しない場合は歯ブラシを数本用意し、乾燥している物を使用する方法もある。歯ブラシは1日あれば乾燥する。

Q5 健康診断票(歯・口腔)の歯式記入において、埋伏歯、半埋伏歯は現在歯数に含めるものなのですか?それとも喪失歯扱いなのでしょうか?

A. 口の中にある歯は全て現在歯となる。Cも処置歯等も含まれる。埋伏歯、半埋伏歯でも見えていれば現在歯としてよい。ただし過剰歯の場合は現在歯に含めない。



# 報告

## 平成27年度青森県歯科保健表彰式～学校歯科部門～

日時：平成27年11月1日(日) 14:00  
 場所：青森県歯科医師会館 3階大ホール

今年度も、たくさんの受賞者にお集まりいただき開催されました。学校歯科部門の結果は下記のとおりです。

なお、表彰式の様子は青森県歯科医師会ホームページに掲載されておりますのでぜひご覧ください。

(ホームページアドレス <http://www.aomori-da.org/>)



平成27年度 青森県歯科保健表彰式 (平成27年11月1日)

### ◆学校歯科保健優良校表彰結果

※敬称略

		小学校		
		小規模校の部(0～7学級)	中規模校の部(8～15学級)	大規模校の部(16学級以上)
県	—	八戸市立種差小学校	応募なし	三沢市立三沢小学校
準県	—	十和田市立四和小学校		三沢市立木崎野小学校
		中学校		
		小規模校の部(0～10学級)	大規模校の部(11学級以上)	
県	—	六ヶ所村立第二中学校	応募なし	
準県	—	階上町立道仏中学校		
		高等学校の部	特別支援学校の部	幼稚園の部
県	—	八戸工業高等専門学校	県立森田養護学校	学校法人鵬学園 認定こども園百石幼稚園
準県	—	県立北斗高等学校	応募なし	社会福祉法人七戸美光園 道ノ上こども園



### ◆歯・口の健康児童表彰結果

※敬称略

		学校名・学年・氏名		結果
男	子	青森市立千刈小学校	6 西塚 秀徳	健康歯肉大賞
	弘前市立相馬小学校	6 三上 颯大	入選	
	八戸市立江陽小学校	5 杉保 仁斗	入選	
	平川市立柏木小学校	6 木村 宥心	入選	
	五所川原市立三輪小学校	1 加納 颯己	準県一	
	つがる市立稲垣小学校	1 秋元 晴遥	入選	
	むつ市立苫生小学校	6 山崎 葉王	入選	
	三沢市立おおぞら小学校	5 馬場 大河	県一	
	階上町立大蛇小学校	6 浜久保晴彬	歯列咬合大賞	
女	子	青森市立浪館小学校	6 三浦 芽衣	入選
	弘前市立第三大成小学校	6 宮古 椿	準県一	
	八戸市立多賀小学校	6 吉田 瑠杏	入選	
	黒石市立黒石東小学校	6 畠山 仁葉	入選	
	五所川原市立中央小学校	5 織田 恭佳	健康歯肉大賞	
	深浦町立修道小学校	6 伊藤 野愛	県一	
	むつ市立大平小学校	6 岡本 結衣	入選	
	三沢市立木崎野小学校	6 船水 初音	入選	
	南部町立向小学校	6 坂本 結衣	歯列咬合大賞	

※県一を受賞されたお二人の口腔内写真を裏表紙に掲載いたしました。健康できれいな模範例です。

### ◆図画・ポスター・標語コンクール結果 表紙をご覧ください。

～歯・口の健康児童  
 県審査会の様子～



# 調査報告

## 平成27年度歯科保健調査報告

### 平成27年度の学校歯科保健統計より

学校歯科委員 工藤 淳治

12歳児のDMF歯数減少傾向が続いており、全国平均では0.90本となりました。0.90本の内訳は喪失歯数0.01本、処置歯数0.55本、未処置歯数0.34本です。前年度の1.00本に比べ0.1本の改善となっており、平成17年度と比較するとほぼ半減したことになり、着実に改善されていることがわかります。

処置完了者を含めたむし歯の児童生徒の割合も、小学校、中学校、高等学校、いずれも低下しており、小学校では過半数の児童の永久歯が健全歯となっています。

永久歯の1人あたり平均う歯等数(12歳児)

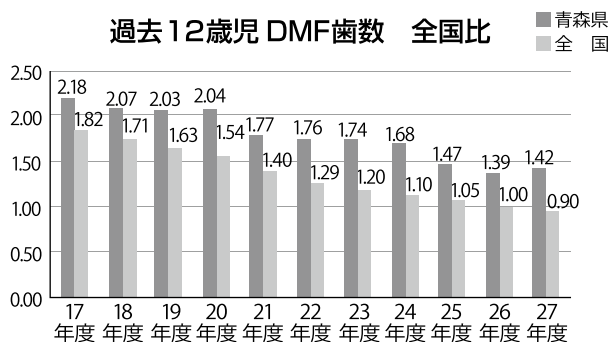
国・県・年度	区分	計 (本)	喪失 歯数 (本)	う 歯		
				計 (本)	処置 歯数 (本)	未処置 歯数 (本)
全国	平成26年度	1.00	0.02	0.99	0.64	0.35
	平成27年度	0.90	0.01	0.89	0.55	0.34
本県	平成26年度	1.39	0.01	1.38	0.82	0.56
	平成27年度	1.42	0.01	1.41	0.86	0.54

「平成27年度児童生徒の健康・体力」より

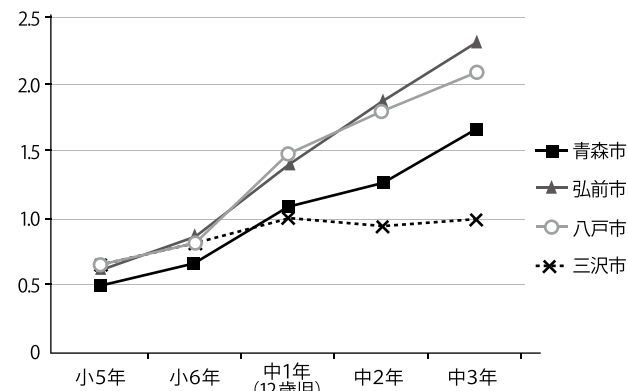
青森県も減少傾向は続いているものの、今年度は12歳児のDMF歯数が1.42本で昨年の1.39本より悪化しており大きな違いはありませんが、ここにきて改善の流れが弱くなっている恐れがあります。

全国平均0.90本との差は広がる傾向を示しているのも気がかりです。

過去12歳児 DMF歯数 全国比



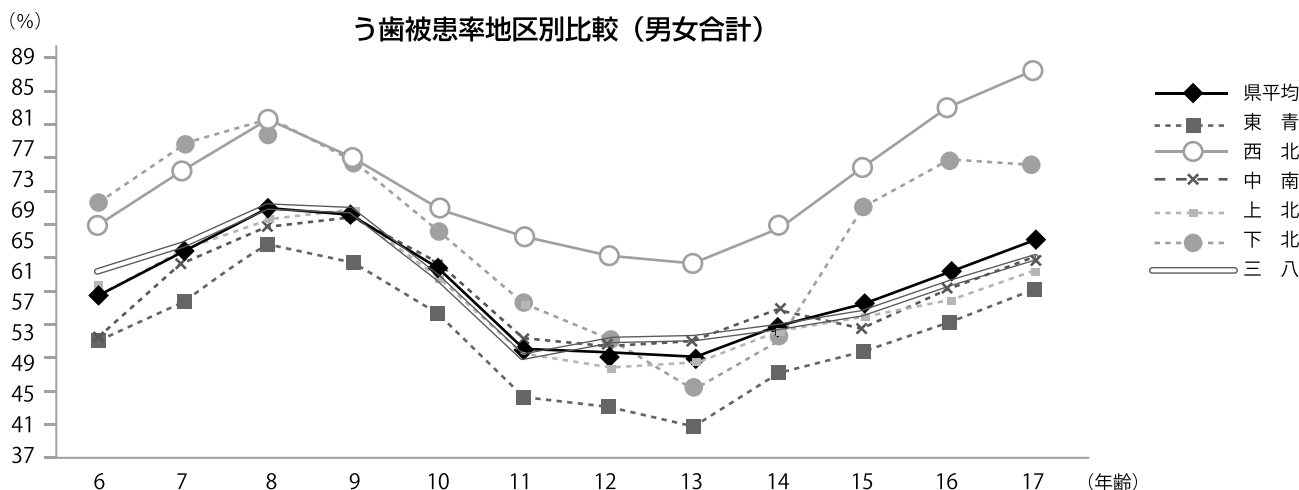
平成27年度青森県市町村別 DMF歯数(学年別)から4市比較



また、上のグラフは青森市、弘前市、八戸市、三沢市との小学校5年から中学校3年までの比較ですが、学年が進むに従い増加する傾向にあり、その理由としては食生活の変化やスポーツ飲料など砂糖を含む飲料摂取の増加などが考えられます。当県で唯一フッ素洗口を実施している三沢市の場合、増加傾向がなだらかで他市との差が際立っています。

県内のう歯罹患率の地区別比較に関しては、罹患率の低い東青、三八地区と、う歯罹患率の高い西北地区下北地区との差は20%以上あり依然として地域差が大きく、市町村間の格差も大きく青森県全体の底上げをするための分析、対策がさらに必要と思われます。

う歯被患率地区別比較(男女合計)



「平成27年度児童生徒の健康・体力」より



平成27年度青森県市町村別DMF歯数(学年別)

市町村名	小5年	小6年	中1年 (12歳児)	中2年	中3年	高1年	高2年	高3年
青森市	0.51	0.66	1.08	1.26	1.68			
弘前市	0.64	0.86	1.42	1.87	2.32			
八戸市	0.65	0.81	1.48	1.80	2.08			
黒石市	1.86	1.84	2.42	3.31	3.72			
五所川原市	1.57	1.78	1.93	2.72	3.51			
十和田市	0.51	0.63	1.21	1.73	2.55			
三沢市	0.63	0.84	1.00	0.94	0.99			
むつ市	1.11	1.30	1.62	1.58	1.87			
つがる市	0.62	1.28	1.49	2.09	2.41			
平川市	1.19	1.46	2.23	2.55	3.04			
平内町	0.82	0.88	2.52	1.06	1.44			
今別町	0.57	1.00	1.80	2.50	1.78			
蓬田村	0.89	0.68	1.78	1.77	1.72			
外ヶ浜町	0.89	1.33	1.66	1.62	3.26			
鱒ヶ沢町	2.06	3.12	2.23	2.41	3.11			
深浦町	0.68	1.31	1.50	1.79	1.69			
西目屋村	1.38	0.43	—	—	—			
藤崎町	0.69	0.78	1.58	2.25	2.08			
大鰐町	0.15	0.79	0.16	0.11	0.85			
田舎館村	0.85	1.51	2.58	2.94	4.42			
板柳町	1.18	2.04	2.12	2.88	2.94			
鶴田町	0.63	1.37	1.29	1.20	1.67			
中泊町	0.67	1.51	1.73	2.13	2.70			
野辺地町	0.83	1.19	1.07	2.18	1.73			
七戸町	0.53	0.73	1.67	2.11	2.33			
六戸町	0.94	1.18	1.12	1.18	1.90			
横浜町	1.55	2.47	3.07	4.12	4.72			
東北町	0.82	1.26	1.24	1.99	2.45			
六ヶ所村	1.03	1.11	2.20	2.89	4.04			
おいらせ町	0.62	0.97	1.36	1.16	1.64			
大間町	2.00	1.94	1.85	2.65	4.18			
東通村	1.22	1.16	3.00	3.28	3.62			
風間浦村	0.57	0.47	1.53	0.54	3.20			
佐井村	0.06	0.15	0.75	1.41	1.94			
三戸町	0.51	0.68	1.51	1.99	2.12			
五戸町	0.59	0.86	1.14	1.08	1.49			
田子町	0.34	0.75	1.02	1.28	1.35			
南部町	0.93	1.18	2.09	1.86	2.00			
階上町	0.53	1.15	1.11	1.30	1.69			
新郷村	0.52	0.44	0.93	0.67	1.32			
計(学年)	0.74	0.96	1.42	1.73	2.14	2.57	3.01	3.62
計(学校種)	0.50		1.77			3.06		

報告

児童虐待防止研修会

日時：平成27年9月12日(土) 15:30

場所：青森市「青森県歯科医師会館」

「子どもを『みる』—虐待・マルトリートメントの気づきから、自分のできることを考える—」

日本歯科大学 生命歯学部 歯科法医学講座

講師 岩原 香織 氏

学校歯科委員会 副委員長 佐々木 光平

45名(歯科医師12名、歯科衛生士1名、行政関係10名、保育関係21名、警察関係1名)参加のもと開催されました。

児童虐待という、気の重くなるようなタイトルの研修会でしたが、岩原先生の明るい話し方で楽しく参加することができました。

タイトルの「マルトリートメント」とは「大人が子どもに対して不適切なかかわりをする」という意味の言葉であり「虐待」よりも広い概念の言葉です。子どもに「あざ」や「骨折」などが生じていなくても「明らかに危険が予測されるような場合」もマルトリートメントに含まれます。

はじめに「みる」という言葉の説明がありました。「みる」とは「調べる」「診断する」「判断する」「確認する」「鑑定する」「世話をする」などの様々な意味があるという事で、我々歯科医師は子どもを「みる」場合、特に虐待が疑われる場合はこれら全ての「みる」に感覚を張り巡らせて「みる」必要があるという事です。そして「あれ?なにか変」「もしかして…虐待?」など子どもや保護者の「不自然さ」に「気づき」を重視し、歯科法医学の視点で、子どもの損傷や疾病を注意深く観察し、「いつ」「どこで」「どのような状態で」損傷を受けたかを詳しく聴取し、後にそのことを振り返りじっくりと検討して「自分の気づきを確認」できるようにしておく事が大切だと話されていました。

スライドでは様々な虐待のケースを見せて頂きました。タバコの火や、針金を使った虐待や骨折した部位の엑스線写真もありました。そして歯科医師として虐待が疑われる子どもを診察する際の留意点も詳しく説明されました。歯科臨床の現場は子どもが重篤な状態に陥る前、取り返しのつかない状態に陥る前のサポートができる場所でもあり、そのためにいつも「みる」感覚を研ぎ澄まして「自分で気づく」事ができるようにして頂きたいと話しておられました。

最後になぜ虐待に走るのか?その答えは単純なものではなく、虐待者本人にとっても複雑な要因が絡み合って簡単には説明できる事ではない事。だからこそ普通の母親・父親がいつでも加害者になりうる危険性をはらんでいるのでそれをどう食い止めるかが重要だという事です。

誰にでも児童虐待を起こす可能性はあります。私達は歯科臨床に携わる者として「ちょっとした事に気づく」事によってこのような人々をサポートし、良い方向に向かわせる事ができるという事です。

児童虐待防止研修会は青森県歯科医師会として初めての試みでした。岩原先生が何度も口にした「気づき」の心を磨きながら日々の臨床に打ち込んでいきたいと思えます。



## 大会参加報告

## 第79回全国学校歯科保健研究大会(長野県)

学校歯科委員会 委員長 村上 淳一

平成27年10月29日(木)・30日(金)の両日、第79回全国学校歯科保健研究大会が長野県長野市のホクト文化ホール(長野県県民文化会館)において開催された。『「生きる力」をはぐくむ歯・口の健康づくりの展開を目指して一生涯を通じて自らの健康を保持増進するための学校歯科保健のあり方』というテーマのもと、歯と口の健康づくりをとおして、子どもたちが自分自身で健康課題を見つけ、解決できる「生きる力」をはぐくむために、われわれ学校歯科保健関係者は連携しながら取り組みを進めるとともに、今回の大会では「健康寿命の延伸」にも焦点を当て、子どもたちが生涯にわたって自らの健康を保持増進するために、学校歯科保健はどうあるべきかについて考え、児童生徒の健全育成を目指して行われた。

## 1日目

【開会式・表彰式】13:00～

【基調講演】14:15～ 国立モンゴル医科大学歯学部客員教授 岡崎好秀先生による基調講演が行われた。テーマは「生涯を通じて自らの健康を保持増進するための学校歯科保健のあり方～食育の基本は歯・口の健康づくりから～」で、食生活の変化によって現れる口腔疾患について豊富な事例を示し、「口は食物が最初に入る場所であるから、食物が変われば最初が変わるのは口である」と述べた。

さらに、大きく変わった食環境によって、小児の新たな口腔疾患が増加しているとし、その対策として水やお茶での流し込み食べをやめさせ、大きな口を開けて、前歯でかじり取る食べ方をしよう大きな塊で食物を与えることが必要とした。

食育には、口に入る前の食育(何を食べるか?)と口に入った後の食育(どう食べるか?)の二つがあり、後者は見逃されがちであった。歯はむし歯や歯周病になるために生えてきたものでなければ、みがくために生えてきたものでもない。歯は食べ物をしっかり噛み、子どもたちの成長発達を促すために生えてくる。だからこそ「食育の基本は歯・口の健康づくりから」始まり、今こそ学校歯科医の立場から「口に入った後の食育」の重要性を広く訴える必要があると結論づけた。

【シンポジウム】15:50～ 東京女子体育大学 戸田芳雄教授を座長に、シンポジウムが行われた。

1)「健康長寿 長野」の実現に向けた学校歯科保健の取組 長野県教育委員会事務局保健厚生課 宮下册子課長、2) 学校保健委員会と養護教諭 チェンジ!チャンス!チャレンジ! 東京都中央区立久松小学校 上野弘子養護教諭、3) 健康生活を保持増進するための学校保健委員会の取組について 学校経営に位置付く学校保健委員会～ヘルスプロモーションの考え方に立った取組に～ 東京都中央区立泰明小学校・同幼稚園 木暮義弘元校長・元園長、4) 健康な生活を保持増進するための学校保健委員会の取組～学校保健委員会における学校歯科医の役割～ 高知県高知市立西部中学校 学校歯科医・一般社団法人日本学校歯科医会 野村圭介理事の4名のシンポジストがそれぞれ発表を行った。座長からの総括の後、質疑応答が行われた。

【ポスター発表】会場1階展示室にて、19題のポスター発表がなされた。また、全日本学校歯科保健優良校表彰の優秀賞7校(園)の取り組みが紹介された。

## 2日目

【領域別研究協議会】9:15～ 領域別部会に分かれて発表が行われた。

## ●保育所(園)・幼稚園部会

- ①「よく噛んで元気な子になろう!」  
～生きる力を育む歯と口の健康づくり～
- ②幼稚園における歯・口の健康づくりと卒園後の追跡調査について～園歯科医、歯科衛生士、家庭等との連携・協働を中心に～

## ●小学校部会

- ①自分の健康に関心を持ち、進んで健康的な生活を送ろうとする子どもの育成 ～歯と口の健康づくりを通して～
- ②自ら歯・口を大切にす児童の育成  
～学校・学校歯科医・家庭との連携を通して～

## ●中学校部会

- ①食育を通して歯と口の健康について学ぶ取り組みについて  
～生徒会活動・PTA活動と連携して～
- ②自律的に歯と口の健康づくりを行う生徒の育成  
～「関わり合い・支え合い・高め合い」歯科保健活動～

## ●高等学校部会

- ①「地域連携型健康教育」を指向した保健委員会活動  
～元気100倍!!望高レンジャー～
- ②生活習慣病予防を目指した歯と口の健康づくり  
～12年間の成果 健康教育で学校が変わる～

## ●特別支援教育部会

- ①併設病院とともにすすめる口腔ケア  
～歯みがきから口腔ケアへの視点へ～
- ②「生きる力」をはぐくむ歯と口の健康づくり  
～学校医・歯科衛生士・栄養士との連携を通して～

【領域別研究協議会報告】11:10～ 各部会の担当座長より領域別研究協議会の報告があり、川本強専務理事が大会宣言を朗読した後、清水会長に提出した。

【閉会式】清水会長より、次期開催地を東京都とすることが報告され、清水会長、長野県歯科医師会 春日会長、一般社団法人東京都学校歯科医会 川本強会長の3者による「学校歯科医の鐘」の引き継ぎが行われた。次期開催地代表の挨拶の後、長野県歯科医師会 小池平一郎副会長が閉会を宣言した。

平成29年度に青森市で開催される第81回全国学校歯科保健大会にもたくさんの方々にご参加頂き、学校歯科保健について研究討議して頂きたいと願っている。



## お知らせ

## 第81回全国学校歯科保健研究大会開催決定!!

平成29年10月26、27日に青森市で第81回全国学校歯科保健研究大会を開催することが決定しました。

保育所(園)・幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援教育の5つの領域で歯・口の健康づくりについて研究討議を行い、学校歯科保健の更なる向上を図る事を目的として開催されます。

現在、市町村、幼稚園、保育園、小・中学校等が情報交換しながら地域ぐるみで歯科保健活動を実施している地域が増えてきています。子ども一人ひとりを地域で支えていく為に更に連携を強め、子ども達が健康で健やかに成長できるよう皆様の一層のご理解、ご協力とたくさんの参加をお待ちしております。

期日：平成29年10月26日(木)・27日(金)

会場：リンクステーションホール青森(青森市文化会館)

## 学校保健安全法施行規則一部改正に関わる保健調査の実施について

学校保健安全法施行規則の一部が改正され、平成28年4月1日より保健調査(健康診断の事前調査)の実施が定められました。従来は「小学校においては入学時及び必要と認めるとき、小学校以外の学校においては必要と認めるとき」との定めでしたが、改正により「小学校、中学校、高等学校及び高等専門学校においては全学年において幼稚園及び大学においては必要と認めるとき」と実施範囲が広がりました。

本会と致しましても、健康診断を円滑に実施し、健康状態をよりの確にかつ総合的に評価するためには事前の保健調査が必要不可欠であると感じております。是非、保健調査へのご協力をお願い申し上げます。

なお、現在、本会学校歯科委員会において、保健調査票内容について検討し、平成29年度より使用できる様式を作成中でありますことを申し添えます。

## 「8020健康社会フォーラム2016」開催予告

5年ぶりに青森県歯科医師会館で歯と口の健康に関するイベントを開催いたします。講演会や無料フッ素塗布などたくさんの内容を企画しております。歯とお口の健康について学びましょう。是非、ご家族でお越し下さい。

【予定】

日時：平成28年11月13日(日) 10:00～13:00

場所：青森市「青森県歯科医師会館」

## イベント内容

- 講演会「認知症と歯科医療について」(仮)
- ブース・無料フッ素塗布・歯科健康相談
  - ・歯科支援車試乗体験
  - ・図画、ポスター、標語コンクール金賞作品展示
  - 他

※現在の予定です。変更になる可能性もあることをご了承下さい。詳細は本会HPにてお知らせします。

## インターネット参加による「第73回全国小学生歯みがき大会」

開催日：平成28年6月3日(金)

発信場所：歯科医師会館【東京都】

募集対象：小学校4～6年生(いずれか1学年)

申込期間：平成27年12月～平成28年2月29日(月)

※定員になり次第締切となります。

申込方法：ライオン歯科衛生研究所のHPにてお申込み下さい。

ご好評につき、申し込みが締め切られました。  
29年度の申し込みは28年12月頃の予定です。

## 第72回大会青森県参加校

青森市／浪岡北小学校、荒川小学校、後潟小学校、女鹿沢小学校、  
青森若葉養護学校

弘前市／大成小学校、相馬小学校、大和沢小学校

八戸市／八戸第一養護学校、大久喜小学校

黒石市／東英小学校、六郷小学校、黒石小学校、中郷小学校、北陽小学校

十和田市／西小学校

三沢市／岡三沢小学校

むつ市／第一田名部小学校、第三田名部小学校、関根小学校、川内小学校

平川市／金田小学校 平内町／小湊小学校

藤崎町／常盤小学校 野辺地町／馬門小学校

横浜町／横浜小学校 おいらせ町／甲洋小学校

三戸町／斗川小学校

## ～歯みがき大会への想い～

歯みがきはむし歯予防のためだけにするものではありません。

口は人間にとってとても大切なもの。  
ご飯を食べ、だれかと話し、大きな声で笑う。

その大事な口をていねいに見つめて、  
見えないところまでも清潔にしてきもちよく保つ、それが歯みがきです。

ただ、歯みがきを毎日ちゃんとやるのは案外大変なこと。  
なんとなく歯みがきをしたからこれでいいや、と終わらせてしまうこともある。  
今日サボったくらいではむし歯にならないし、だれにも怒られません。

でも、そんな自分を見ている人が1人だけいます。  
それは、今の自分の積み重ねの先にいる未来の自分。  
未来の自分だけはごまかせない。

だからこそ、今日できることをちゃんとやろう。  
歯みがきも、勉強も、スポーツも、  
今日、いま、この瞬間をやりきっている人を応援します。

歯と自分をみがこう。

全国小学生歯みがき大会



## 「歯・口の健康児童」県一受賞者

三沢市立おおぞら小学校  
5年 馬場大河さん



深浦町立修道小学校  
6年 伊藤野愛さん



## 第54回全日本学校歯科保健優良校

奨励賞	三沢市立三川目小学校
奨励賞	弘前市立岩木小学校
奨励賞	三沢市立第三中学校

### 来年度の予定

#### 募集関係

##### ■ 図画・ポスター・標語コンクール

締切 平成28年6月30日(木)

審査会 平成28年7月2日(土)

金賞作品展示予定(於：青森県歯科医師会館)

○28.10.30(日)「青森県歯科保健表彰式」

○28.11.13(日)「8020 健康社会フォーラム」

##### ■ 青森県歯科保健優良校表彰書類審査会

平成28年9月24日(土)

※締切は地区により異なりますので、要項をご覧ください。

県審査会への締切(地区から県へ)

平成28年9月2日(金)

##### ■ 「歯・口の健康児童」県審査会

平成28年10月30日(日)

青森県歯科保健表彰式開催前

※締切は地区により異なりますので、要項をご覧ください。

県審査会への締切(地区から県へ)

平成28年9月9日(金)

※募集要項は4～5月に各園、学校へメール通知または郵送されます。また、本会ホームページへも掲載予定です。応募の際は募集要項をご確認の上、各園、学校で取りまとめてご応募下さい。

#### 大会関係

##### ■ 平成28年度青森県学校歯科保健研究大会

平成28年7月下旬

※決まり次第お知らせします。

##### ■ 第80回全国学校歯科保健研究大会

(東京都 文京シビックホール)

平成28年11月16日(水)～17日(木)

##### ■ 平成28年度全国学校保健・安全研究大会

第66回全国学校歯科医協議会(北海道札幌市)

平成28年10月27日(木)～28日(金)



#### 編集後記

江戸時代に「のれん」は手ふきに使われた。料理をつまんだ客が手についた油を帰りぎわに「のれん」にふいて帰った。だから繁盛している店ほど「のれん」は汚れていたと言う。

「学校歯科委員会だより」も今回で6回目の発行となる。そろそろ名前も知られてきたことだろう。

「のれん」のように汚れるまで読んで頂けるようなものにするには至難のわざだが、できるだけこれに近づけるように充実したものにしていきたいと思います。

学校歯科委員会

副委員長 佐々木 光平

発行者 一般社団法人青森県歯科医師会

〒030-0811 青森市青柳一丁目3-11

TEL017-777-4870 FAX017-722-4603

学校歯科委員 委員長/村上 淳一 副委員長/佐々木光平

委員/村田 浩伸、工藤 淳治、堀部 崇、工藤 康之

小林 寛志、葛西治千代、千代谷良子、稲村裕之

この学校歯科委員だよりは青森県歯科医師会ホームページでもご覧いただけます。青森県歯科医師会ホームページアドレス：http://www.aomori-da.org/